

平成 29 年度 学校評価報告書（目標設定・実施結果）

視点	4 年間の目標 (平成 28 年度策定)	1 年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (3月22日実施)	総合評価(3月30日実施)	
			具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
1 教育課程 学習指導	<p>①国際理解教育のさらなる充実。</p> <p>②基礎学力の定着と応用力の伸長。</p>	<p>①国際理解を深めるための学習の機会を増やし、内容の充実を図る。</p> <p>②基礎力の定着と応用力の伸長を目指した授業研究を充実させ、内容の充実を図る。</p>	<p>①留学生を積極的に受け入れ、相互の学習の機会を増やす。</p> <p>②家庭学習を習慣化させる取り組みを行う。「主体的、対話的で深い学び」を授業改善目標とし、教員研修等を通じて目標の実現を図る。</p>	<p>①留学生との交流会を3回以上実施したか。</p> <p>②生徒に家庭学習の習慣はついたか。職員全体での研修会を実施できたか。各教科ごとの協議によって主体的、対話的な授業づくりを実施し、全体で成果を共有できたか。</p>	<p>・新たに2名の留学生を迎え、交流会を4回実施した。</p> <p>・家庭学習の習慣化を目標に学年や教科による取り組みが行われた。</p> <p>・8月末に全教職員対象に「『主体的、対話的で深い学び』の実践」をテーマに研修会を実施した。</p> <p>・研修会で学んだことも反映させながら、国語、地歴公民数学、理科、英語、保健体育の各教科で計9回の研究授業を実施した。事前に教科による「授業づくり」を実施するために「一斉教科会」の日を設けたことによって、意見交換が活発化した。</p>	<p>・同じ生徒が参加する傾向にあるので、多くの生徒に参加してもらえよう募集の仕方を工夫したい。</p> <p>・家庭学習の習慣化を目標とする取り組みは、どのような方法が有効か試行錯誤の段階であり、有効な手立てをさらに探り、広げていく方策を探りたい。</p> <p>・研修会は、「主体的、対話的で深い学び」「アクティブラーニング」に関連した取り組みを知るうえで有意義であった。来年度以降も新しい学習指導要領の考え方や様々な授業実践例などを学ぶ機会をつくりたい。また、教科による授業づくりについては、昨年度よりも意見交換が活発化し取り組みとしては前進したが、さらに教科科目の教員が共同で授業を作り上げる方向に向かえるように工夫していきたい。</p>	<p>・今年度は姉妹校のホームステイ受入がなかったのが残念だが、留学生との交流は生徒に良い刺激になっている。</p> <p>・「主体的、対話的で深い学び」の研修会によって、教員間の共通認識を持つことは意義がある。</p>	<p>・国際交流については、留学生の受け入れを積極的に推進したことで、交流の機会を拡大することができた。</p> <p>・オーストラリアへの高校との姉妹校交流について、姉妹校の都合で訪日が叶わなかったが、継続して交流のPRを行うことで国際交流意識の啓発を行なう。</p> <p>・グローバルコミュニケーションコースの特別授業がより系統的、組織的に実施されるようになった。また受講者の成果を学年全体に波及させることができた。</p> <p>・主体的・対話的で深い学びの実現のためのアクティブ・ラーニングの視点を教職員で共有することができた。今後はさらに理解を深めるとともに実践に向けて組織的対応を図ることが必要である。</p>	<p>・引き続き、短期留学生を積極的に受け入れることで、交流の機会をさらに拡大する。</p> <p>・姉妹校交流について氷取沢高校との連携体制を構築し、交流の活性化を推進するとともに、授業での交流を拡大するなど、双方にとって充実した取り組みとなるようプログラムを検討する。</p> <p>・実用英語検定の受検を一般コースにも広げ、多くの生徒が目標をもって学習に取り組めるようにする。</p> <p>・幼稚園から高等学校までの学習指導要領を踏まえたアクティブ・ラーニングの視点による授業研究を推進するとともに、評価についても研究する。</p>
2 生徒指導・支援	<p>①社会的自立と社会性の育成。</p> <p>②豊かな人間性を培い、社会に貢献できる人材の育成。</p>	<p>①磯子モラル（社会人として求められる行動）を定着させる。</p> <p>②生徒主体の学校行事運営によるリーダーシップを育成する。</p>	<p>①制服指導、交通指導などの指導を通して、生徒の規範意識の向上を目指す。</p> <p>②挨拶がしっかりできるようにする。</p> <p>③生徒が主体的に行事に参加し、リーダーとなれるような人材を引き出す。</p> <p>④部活動の活性化を図り、持続できるよう支援する。</p>	<p>①生徒に適切な制服指導ができたか。また生徒にルールを守ることの重要性を指導できたか。</p> <p>②生徒に挨拶が定着したか。</p> <p>③委員会や生徒会執行部の活動を進めることができたか。</p> <p>④部活動入部率50%以上であったか。</p>	<p>・特別指導件数は昨年度に比べ減少し指導内容も軽微な指導となった。</p> <p>・一部の女子生徒がスカートの下にハーフパンツを着用して登校している実態はまだある。</p> <p>・体育祭・文化祭では各部活動や委員会が係になり行事をスムーズに進行させた。</p> <p>・様々な部が活躍し、実績を残した。部活動の入部率は1年生が32.7%、2年生が48.2%。2年生は継続しているが、1</p>	<p>・生徒の規範意識を育てる取り組みを多方面で行い特別指導の件数をさらに減少させたい。</p> <p>・近隣住民やバス利用者などに配慮する意識を生徒に定着させる。</p> <p>・生徒自身で考え動くことがなかなかできないため、委員会や生徒会執行部をよりきめ細やかに支援していく。</p> <p>・新3年生が引退後、継続できる部活動に限られている。残された生徒がどう活動を続けていくのか、かなり厳しい状況である。</p>	<p>・登下校時のマナーがよく、特に気になることもない。小学校の児童にも挨拶してくれる生徒がほとんどだが、音楽を聴いていて気づかない生徒も若干いる。</p> <p>・部活動が活発だと中学生にも良い励みになる。</p> <p>・新入生が入って来ないと団体競</p>	<p>・細やかな生徒指導により学校全体の落ち着きが増し、生徒の規範意識を向上させることができた。</p> <p>・文化祭、体育祭、球技大会などの運営面における生徒の主体的な活動が多く見られた。</p> <p>・部活動において、部としての一体感が向上し、磯子高校の生徒としての誇りが増してきた。また、生き生きとした活気ある高校生活の様子</p>	<p>・学校行事では、生徒の達成感と有用感を高めるために、保護者や地域の参加協力体制をさらに整備する。</p> <p>・ネット社会における危険性についての教育をさらに充実させ、生徒が事故や犯罪に巻き込まれないよう啓発活動の充実を図る。</p> <p>・完校に向けた部活動のあり方</p>

						年生は4月当初から退部している生徒が多い。		技の存続が難しいので、今後どう存続させていくかが課題。	が見られた。 ・生徒の様子について、家庭との連絡がこまめにとられており、生徒指導・支援がスムーズに行われた。	を検討し、活動環境を整える。
3	進路指導・支援	①自己のより高い進路実現にチャレンジする生徒の育成。 ②職業的自立と将来を見据えたキャリア教育の充実。	①生徒一人ひとりの現状を把握し、より高い目標設定ができる進路支援を行う。 ②自己理解と適正を踏まえた職業観育成を目指し、インターンシップの充実を図る。	①進路実現を目指した進路相談やガイダンスの充実を図る。 ②職業意識を養うためにインターンシップ等の情報を積極的に発信する。	①ガイダンスの回数や進路状況に改善がみられたか。 ②インターンシップの振り返りアンケートで、7割以上がやや満足以上であったか。	・自己理解から分野別ガイダンス、模擬授業など、年間を通して段階的に進路実現に向けてサポートすることができた。 ・夏季休業期間中のオープンキャンパスへの参加をほぼ全員に促すことができた。 ・インターンシップは、9名の参加があり、8名から「満足した」との回答があった。	・早い段階から進路に対する意識を高め、一人ひとりの目的に応じたガイダンス説明会等を実施していく。 ・より幅広い視点を持って進路について考えられるような体制を作っていく。 ・今回のインターンシップ参加者は3年生のみになってしまったので、2年生への参加を促進し、より早い段階から進路について考えさせていきたい。	・インターンシップは生徒の満足度も高いようで、進路を考えるうえでよい機会となっている。 ・ガイダンス・進路相談を充実させ、生徒の進路希望把握に努めたところ、希望する進路を実現する生徒が増えた。4年制大学合格者数や第一希望への進路決定者が年々増加している。 ・早い時期からキャリアガイダンスを実施しているため、興味を持てる生徒が増えている。保護者の協力を得るためにも進路情報を的確に発信していく必要がある。	・ホームページの活用など保護者への情報提供の工夫を図る。 ・卒業生や関係機関など、外部の人材を活用していく。 ・進路閲覧室の活用をさらに活性化させるための工夫に取り組む。 ・実体験に基づいた学習ができるインターンシップに重点を置いた指導を充実させる。	
4	地域等との協働	①地域に根ざした学校を目指し、双方の教育力の最大限の活用。 ②地域防災との連携推進。	①地域から学び、また地域に対し本校の教育力を還元する機会を充実させる。 ②子どもワクワク体験を実施し、地域の子どもたちに体験学習の機会を与える。	①せせらぎ学校を実施し、地域の教育力を活用する。 ②子どもワクワク体験を実施し、地域の子どもたちに体験学習の機会を与える。	①せせらぎ学校に50名以上の講師を招いて実施できたか。 ②子どもワクワク体験の講座を3講座以上開講できたか。	・せせらぎ学校では53名の講師を招き、生徒にとって有意義な機会となった。 ・子どもワクワク体験は茶道・書道・生物の3講座を開講し職員・生徒が地域の子ども達の体験のサポートをした。	・1年生対象なので来年度は実施しないが、いろいろな大人と接するよい機会なので、進路指導などと絡めて似たような機会が設けられるとよい。 ・部員や職員の数が少なくなるため、来年度の実施は厳しい。	・小学校の野外活動や夏休みの学習ボランティアなどを高校生にお願いできればお互いに良い影響があるのではないかと思う。	・地域等連携教育の視点から行ったさまざまな取組みについては、生徒の取組み状況や感想から、良い成果が得られたことが確認できた。 ・地域との連携については、お互いの行事に参加し合うなど、工夫することができた。また、継続的に協力していただけるよう受け入れ態勢を整えていく。 ・近隣小学校との交流・連携がさらに進み、生徒の地域貢献への意識を高めることができた。 ・地域の防災訓練に生徒が参加することができた。	・教育力向上推進事業の取組みを継承し各グループや教科で積極的に実践していく。 ・地域と交流したことによる成果の周知方法を工夫し、より多くの生徒が参加するよう情報提供を進めていく。 ・災害発生時に向けた整備を継続的に進めるとともに、非常時の地域住民の受け入れ体制について地域自治体とともに検討する。
5	学校管理 学校運営	①事故・不祥事ゼロの実現。 ②再編・統合及び完校に向けた取組の推進。	①不祥事防止に対する研修会の充実を図り、職員の意識を高め不祥事ゼロを実践する。 ②40周年記念事業を実施するとともに、再編・統合を視野に入れた取組を推進させる。	①研修会を通じて職員の危機管理意識を向上させる。 ②磯子高校らしい40周年記念事業を企画立案していく。	①不祥事・事故ゼロ目標を達成できたか。 ②職員・生徒・PTAのアイデアや意見を反映できたか。	① 不祥事・事故ゼロ目標を達成できた。 ② 40周年式典において記念DVDの上映や野球部員による合唱など本校独自の取り組みができた。	① 大きな不祥事や事故は起こらなかったが、引き続き日常で起こる様々な問題について丁寧な対応を心がける雰囲気を保っていく。 ② 完校にむけ、より具体的な意見や案を幅広く取り入れていく。	・来年度は学年が減り学食を地域に開放する方法もあるが、種々が豊富で、価格がよほど安くはないと、なかなか地域の人は来ないだろう。	・事故・不祥事防止研修については、充実した研修を実施することができた。 ・40周年記念式典を無事に実施することができた。	・完校に向けて準備委員会を立ち上げ、生徒の声なども反映しながら内容を検討していく。